

三菱商事・政投銀の病院ファンド設立の狙いは

○…このところ、にわかに病院ファンドが活発に動き出している。本欄でも再三紹介してきたが、4月に入って三菱商事と日本政策投資銀行が共同で設立した「トリニティヘルスケアファンド」が本格的に動き出して、「いよいよ本命登場か」と話題になっている。すでに三井不動産や伊藤忠など商社系、野村証券、ドイツ証券など証券会社系、さらには会計業界系など大小さまざまな病院ファンドが設立され、覇を競っている。三菱商事・政投銀グループの病院ファンドは全国の有力地銀とネットワークし、病院向け貸出債権の買い取りまで含め投資規模や投資期間のスケールが格段に大きいことで本命視されている。三菱商事は同社の全事業活動の中でヘルスケア分野を重点事業に選定、すでに関連子会社群を通じ30年以上の実績とネットワークを持つ。今度の「トリニティヘルスケアファンド」は三菱、政投銀、機関投資家などから200億円を調達し、5～10年で最大1000億円の投資をしていく。このファンドは不動産取引や財務リストラによる一時的な財務面の改善だけではなく、実務的にも医療機関や介護事業者の収益改善を支援し、地域社会により質の高い医療・介護サービスの提供体制を確立していくことを最大の特徴としている。一方、こうした病院ファンドの広がりには、経営管理・財務情報の開示が一般企業並みにできていない医療機関は資金調達の道が断たれることを意味するので、今後論議を呼ぶことも予想される。

○…4月4日この「トリニティヘルスケアファンド」を実際に運用助言する会社「ヘルスケアマネジメントパートナーズ」の村山浩社長を訪ねた。2月14日に設立された会社で、三菱商事が66%、政投銀が34%出資した。同社長はこれまではやはり三菱商事100%出資の医療・介護総合経営サポート会社「ライフタイムパートナーズ」の社長を7年間務め、医療法人病院に対し初めて「資産流動化（証券化）スキーム」を導入するなど、医療機関の新しい資金調達手法を開発、病院の収益改善や再生に実績を上げてきた。この手腕を買われての就任だ。三菱商事のヘルスケア分野の関連企業は医療機器販売、医療材料卸売り管理、医療機関への資金調達、コンサルティング業務など10社に及ぶ子会社がある。これらの企業群を村山社長が総合的にコーディネートして投資先の医療機関などを実務面から支援していくことになる。その系列会社は「日本ホスピタルサービス」（後藤俊男社長・病院経営後方支援）、「アプリシア」（北浦克俊社長・大型医療機器導入コンサル）、「プロキュア」（安部幸爾社長・循環器に特化した医療機器輸入、販売など）、「エムシーメディカル」（平野政良社長・医療機器販売、在宅医療）、「ライフタイムパートナーズ」（小川一誠社長・総合経営サポート事業）などがある。今回のファンド設立に当たり、日本投資銀行と提携した経緯について村山社長は「これまでもいくつかの案件を共に手がけてきた中で、単に不動産の価値だけでなく、病院再生を通して医療サービスの質の向上と、地域経済の活性化を促していくという考え方が共有できたから」と語る。その上に、政投銀の持つ各地の医療機関や金融機関とのネットワークも魅力的であったのだろう。政投銀が病院ファンドに投資するのは初めてのケースという。ファンド名の「トリニティ」（Trinity）は「三位一体」という意味で、「病院も、保険者も、銀行も」とともにウイン・ウインの関係構築していく願いを込めた。病院などへの具体的な投資案件はこれから発掘していくが、病院の経営環境の厳しさを反映してすでに十数件が持ち込まれているという。その選定基準はまずその病院がファンドの支援によって今後安定したキャッシュフローを生み出せるか、そのための診療体制がしっかり整えられているか、そして将来も継続できるのか一などが重点となる。次に問われるのは病院側が真にファンドの意図を理解してくれるかどうか。つまり、理事長、院長、事務長、医師陣、看護部長らとの話し合いの中でどう理解を深めていくか、力が試されるところだ。村山社長は「ライフタイムパートナーズ社での7年間の実績で十分自信がもてる」と胸を張る。とにかく三菱商事を中心にした今回の病院ファンドはとくに中・長期的な視野で事業再生・事業価値の創出を目指しており、わが国の病院ファンドが医療界の新たな資金調達の道として定着していくか、今後を占う試金石として注目される。と同時に20年後には医療・介護の市場が100兆円規模にふくれ上がっていくと予測される中で、着々と地歩を固めていく商社系の戦略のしたたかさに改めてパワーを感じた。（は）（35ページ「ひと」欄参照）



三菱商事グループの病院ファンド運用助言会社「ヘルスケアマネジメントパートナーズ」村山浩社長とパートナーとなる日本政策投資銀行本店（千代田区大手町）

三菱グループが結集して病院ファンドを設立しました



村山 浩氏

ヘルステイクマネジメント
パートナーズ株式会社
代表取締役社長

○：三菱商事グループが日本政策投資銀行と組んで医療機関や介護事業者の経営支援・事業再生を目的としたファンド「トリニティファンド」を設立した。わが国トップヘルステイクア商社が手がける1000億円級の病院対象ファンドである。このファンドを実際に運用助言する会社が「ヘルステイクアマネジメントパートナーズ（HMP）株式会社」。2月14日に設立され、4月から本格的に活動を始めた。このトップに就任したのがいまままで三菱商事の100%子会社「ライフタイムパートナーズ株式会社」の社長だった村山浩氏（41）。3年前に北海道帯広市の医療法人病院（406床）に対し、わが国で初の「資産流動化スキーム」を提案し約60億円を調達、P.E.T導入の道を開いた。昨春秋にはJ.R北海道の運営する「札幌鉄道病院」（312床）の全面建て替え工事に際し、同様の「資産流動化（証券化）の手法」で40億円を調達するなど、病院経営のハード、ソフト面で多面的な支援実績を残してきた手腕が買われた。新会社は三菱商事が66%、政投銀が34%を出資。ファンドは5年で最大1000億円を投資していく。設立された「トリニティヘルステイクファンド」には三菱商事や政投銀、国内の機関投資家が計200億円を上限に出資する。地域活性化や雇用創出を目指す国策銀行でもある政投銀

が医療・介護関連ファンドに出資するのは初めてという。このファンドは不動産取引や財務リストラによる一時的な財務改善だけにとどまらず、実務的にも医療機関・介護事業者の収益改善を支援し、再生させていくことを最大の特徴としている。「トリニティ（Trinity）」というファンド名は「三位一体」という意味で、患者さん、病院保険者も、またファンドも銀行も病院も、さらには予防、医療、介護それぞれが一体的にウイン・ウインの関係になれることを願って名付けたものである。前社での6年間では100以上の医療機関や介護事業者の皆さんにコンサルしたり、実際にファイナンスを実行したりして多くのノウハウを蓄積してきました。いままではいわばウォーミングアップでした。ようやく本格的な病院ファンドを立ち上げるところまでできました。他のファンドにできないことをやっています」。満を持しての登場である。

○：村山氏は1965年生まれ、上智大英語学科卒。さらに米ハーバード・ビジネススクール卒、MBA（経営学修士）取得、90年三菱商事入社、金融部門で主に日本、米国、アジアのM&A、ベンチャー投資、投資ファンドなどを担当、2000年にライフタイムパートナーズを社内起業、医療・介護の総合経営サポート事業を展開してきた。この分野のバイオニアといえる。明るく、颯爽と、なにか大きなことを秘めている雰囲気期待が持たれている。ヘルステイクアマネジメントパートナーズ株式会社 〒105-1623 東京都港区愛宕2-15-1 愛宕グリーンヒルズMORITAWA 39階 ☎03-6860-5501。

タクテールは精神科医の強力なツールです



鹿井博文氏

雁の巣病院副院長
(福岡市)

○：「塩酸ドネペジルなど、アルツハイマー病の有効な治療薬もありますが、認知症の中核症状やBPSDに対する薬物療法にはまだ限界があります」。06年11月3日、アルツハイマー病第1号報告100周年の節目にフロリダ州オーランドで開催された「Dementia Congress」に招聘参加するなど、老年精神医学、心身医学の日本を代表する権威である鹿井氏が、タクテール・ケアに注目したのは「目の前の患者を何とかしてあげたい」というもどかしさからだった。「タクテール」とはラテン語で「触れる」「タッチ」という意味。手足や全身を強く刺激せず、柔らかく撫でるように手で触れ、患者の興奮状態や不安感、痛みなどを緩和するシンプルで効果的なメソッド。スウェーデンで実践・理論付けされたもので、ケアを行う側と受ける側のコミュニケーションや、身体認識の高まりを促す。認知症の緩和ケアやターミナルケアの補完的な手法として、また重度の障害者に対して本国では広く深く浸透している。日本では05年10月に日本スウェーデン福祉研究所（JSCI）が初めて紹介、

わずか2年ほどで多くの医療・福祉施設に普及した。「当院では2年間で5人がストックホルムで、11人がJSCIの研修で技術を習得、臨床場面での取り組みを開始している。」もちろん鹿井氏自身JSCIのリーダー・コース受講経験者だ。「身体介護を拒み激しく抵抗するアルツハイマー病の女性に覚えたタクテール・ケアを優しく、粘り強く行なったところ落ち着きを取り戻し、感謝の言葉をかけてくれた」。鹿井氏が「精神科医として強力なツールを手に入れた」瞬間であった。

○：雁の巣病院は1956年設立の、福岡の中核的な精神科病院。日本精神神経学会研修指定病院、臨床研修指定病院として研修医の受け入れも行っている。病床数409床（認知症治療病棟65床、精神科急性期治療病棟55床、アルコール・ストレス治療病棟66床、精神科療養病棟170床、内科療養病棟53床）。鹿井氏は51年熊本県生まれ。80年鹿児島大医学部を卒業後、同大神経精神医学教室に研修医として入局、90年雁の巣病院に入職した。元福岡市医師会理事、現在、社団法人藤の実会理事・代議員、認知症よろず相談会主催者、福岡こころのケア研究会世話人（事務局、九州大学医学部心療内科）などを務める。雁の巣病院は〒811-0206 福岡市東区雁の巣1丁目26-1 ☎092-6060-2861。